

### P13 口唇口蓋裂児に対する口蓋床の早期治療効果

Clinical Effect of Orthopedic Plate on the Cleft Lip and Palate Patients

○ 落合 聡<sup>1)</sup>、緒方麻記<sup>1)</sup>、森下 格<sup>2)</sup>  
Satoru Ochiai<sup>1)</sup>, Maki Ogata<sup>1)</sup>, Tadashi Morishita<sup>2)</sup>

(医) 雪ノ聖母会聖マリア病院小児歯科<sup>1)</sup>

(医) 雪ノ聖母会聖マリア病院矯正歯科<sup>2)</sup>

Department of Pediatric Dentistry St.Mary's Hospital<sup>1)</sup>

Department of Orthodontics St.Mary's Hospital<sup>2)</sup>

【緒言】近年、口唇口蓋裂(CLP)児に対する哺乳障害や歯槽弓形態の改善を目的とした Hotz 床による治療に加え、鼻・歯槽形態の改善も同時に施行できる術前鼻歯槽形成法(PNAM)の良好な治療成績が注目されている。今回は、当院における PNAM の治療効果について報告する。

【症例・治療】症例は 2006~2007 年度に受診した CLP 児 6 名である。初診時の上顎模型から桑原の改良法<sup>(1)</sup>に従い理想的な歯槽弓形態の set up model を作製、その模型上で調整した口蓋床に Grayson らによる nasal stent<sup>(2)</sup> を付与し、PNAM を施行した。

【結果・考察】PNAM により、哺乳障害や口唇・歯槽弓形態の改善と同時に外鼻形態の改善も認めた。当科では症例ごとに set up model を作製し、それに合わせた口蓋床と nasal stent を用いて治療を行っている。その結果、従来の口蓋床による治療効果に加えて外鼻形態の改善効果も得られた。今後もさらに良好な結果を得るために、効果的な調整方法等を検討していく予定である。

【文献】 1. 中島龍夫ら：口唇口蓋裂の早期総合治療 p94-95, 医歯薬出版, 東京, 1994  
2. Grayson, B.H., et.al: Presurgical nasoalveolar molding in infants with cleft lip and palate. Cleft Palate-Craniofacial J., 36:486-498, 1999